

# 米軍所沢通信基地への 土砂搬入の中止を求めます

2019年2月4日、北関東防衛局から所沢市へ、米軍横田基地の外周道路切り替え工事で発生した土砂を、米軍所沢通信基地に搬入するという説明がありました。これに対しては、所沢市や所沢市議会、市内の諸団体で構成される所沢市基地対策協議会が「基地の本来業務以外の運用は、『基地全面返還』が遠のくことにも繋がりがねない」「砂埃等による基地周辺の住宅や学校などの周辺環境への影響が懸念される」として中止を要請しています（19年2月6日）。

2月27日に同協議会が再度中止を要請しましたが、米軍から「安全と環境に配慮し、所沢市民とも良好な関係を尊重する」という回答がなされたと、北関東防衛局から報告されました（3月13日）。

市民からも中止を求める声があがるなか、4月12日には土砂搬入が開始されました。計画によると、約1年間で3万7000立方メートルの土砂が搬入される予定だといわれています（『埼玉新聞』19年4月14日付）。

所沢市周辺の住民からは「なぜ所沢通信基地に搬入するのか」「土砂の土壌汚染が心配」などの疑問や不安の声があがっています。所沢市は政府に対し、土砂の汚染の有無を確認する調査を求めています。政府は「米側の土壌汚染調査で、特定有害物質は基準値以内と確認している」として、独自の調査はおこなわないと回答してきました（4月8日）。

通信業務を担う所沢基地を土砂置き場にするのは、基地運用の拡張であり、「基地全面返還」を求める市民の願いに逆行します。また、土砂搬入場所の近くには小学校や保育園があり、1日最大120台のダンプカーが往き来するとなれば、児童や生徒の安全を危うくし、教育にも障害を与えることとなります。市民の暮らしを脅かし、自治体の声を無視した土砂の搬入を、早急に中止することを求めます。

2019年4月17日

日本機関紙協会埼玉県本部

理事長 金子勝